

「淡路花博20周年記念 花みどりフェア」閉会

古田 菜穂子氏



兵庫県立大学大学院環境政策学
マネジメント研究科特任教授
公益社団法人ひょうご観光本部
ツーリズムプロデューサー

横山 史氏



おのころデザイン研究所代表
花みどりフェアWEB編集長

シンポジウム参加者

パネリスト

コーディネーター

県立淡路景観園芸学校
学長兼校長

中瀬 勲氏



石原 憲一郎氏



兵庫県参事
公益財団法人兵庫県園芸
公園協会顧問

三好 正文氏



神戸新聞読者本部
NIX推進部
シニアアドバイザー

「みなとつながる『花 緑 食の島』淡路」をテーマに淡路島内一円で開催された「淡路花博20周年記念 花みどりフェア」の閉会式が10月31日、洲本市文化体育館文化ホール（洲本市塩屋）であった。春と秋に分けて繰り広げられた催しを締めくくるグランドフィナーレに約480人が参加。伝統芸能

「淡路人形座」と華道家假屋崎省吾さんのデモンストレーションに続き、パネリスト4人による総括シンポジウムがあり、淡路島の魅力発信について意見が交わされた。假屋崎さんによるいけばな査定コーナーもあり、会場は最後まで盛り上がった。

環境と共生 考える契機に

総括シンポジウム

「人と自然の共生」新たなステージへ

花みどりフェア総括シンポジウムは「人と自然の共生」新たなステージへ」をテーマにパネリストが話し合った。コーディネーターは県立淡路景観園芸学校の中瀬勲学長兼校長。「世界的にも大切なキーワードである共生に着目して話を聞きたい」と活発な議論を促した。

花みどりフェアWEB編集部の横山史編集長はWEBマガジン「花マガ」の活動について報告。「県のホームページや新聞などで募集した総勢35人のボランティア記者に、淡路島の魅力や花みどりフェアを取材してもらった」と話し、東京から移住した20代男性が福良から洲本まで路線バスで旅し、停留所ごとに地元の人にアポなし取材をした企画や、島外ライターがバス旅、自転車旅、ストリートビューなどに、体当たり取材した記事などを紹介した。「幅広い年代の移住者、島外在住者がいるなど、淡路島の魅力が再発見され、島内外の交流も生まれた。残念だったのは島出身のボランティア記者が少なかったこと。今後は地元の人たちと一緒に学びながら発信していきたい」と語った。



地元の小学生姉妹記者の「花マガ」取材。高級レストランでパンを焼く姉妹を姉が撮影。淡路市

多様な角度で魅力を発信 地域とつながる観光提案

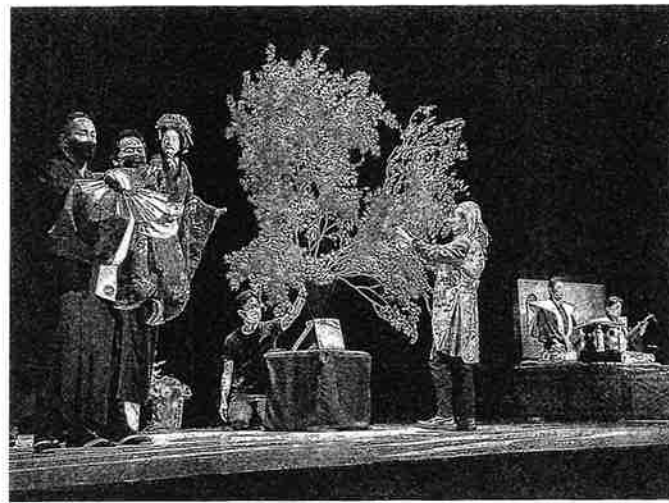
兵庫県立大学大学院の古田菜穂子特任教授は、電動アシスト付き自転車（Eバイク）での島内観光を紹介。「ポストコロナ社会の新しい観光のテーマはヘルス&セーフティ（安全）そして信頼。健康で安全で楽しい観光体験を実現するため、Eバイクで島内をゆつくり回りながら、美しい景観や食、文化を自らの目で訪ね、地域とつながる観光を提案したい」と述べた。Eバイクについて「坂道が多く、バスや徒歩で行きにくかった内陸にも入っていただけるので、淡路島観光にぴったり。知られて



「Eバイク」なら内陸の坂道もらくらく走れる＝淡路市

「はじまりの島」広くPR 催し通じよりよい社会に

三好氏は「はじまりの島」広くPRと光を当てたい」と話し、横山氏は「地元と島外の人、企業のつながりが大切」と強調。古田氏は「淡路島はサステナブルツーリズムへの高いポテンシャルを持っている。地域の人々が自覚し、自ら地域の魅力を発信、発信してほしい」。石原氏は「イベントで社会実験を続けることが大切」と語った。



華麗な淡路人形浄瑠璃の舞に合わせて創作する假屋崎省吾さん(中央右)



齋藤元彦知事

グランドフィナーレ 華道と人形浄瑠璃コラボ

通弘氏があいさつした。壇上では国指定重要無形文化財・淡路人形浄瑠璃と假屋崎氏が共演したフラワーデモンストレーションとトークライブが行われた。三味線や太夫の語り合いに合わせて、色鮮やかな衣装の人形が舞う姿と呼吸するように、假屋崎氏が花の枝や白合などの花々を生け込む。生けられた作品を前に假屋崎氏は「500年の伝統をこのコラボレーションで生かしていきたい。伝統と革新、舞台とお客さまの一期一会と語った。人形遣いの吉田新九朗氏は「人形浄瑠璃には型があるが、假屋崎先生とコラボすると人形が蝶々のように舞った」と話した。



参加者らに語りかける假屋崎省吾さん



フラワーデモンストレーションで生けられた假屋崎省吾さんの作品

総括シンポジウムに続いて假屋崎氏による「プレバト！ いけばな査定コーナー」が開催され、3人の参加者のいけばな作品に「才能アリ」「凡人」「才能ナシ」の評価をし、自ら手直しをしながらアドバイスした。最後に実行委員会委員長の石村健・淡路島くわみ協合理事長が「フェアでの取り組みがレガシー（文化的遺産）として継続し、地域振興につながることを期待している」とあいさつし閉会した。